

学生卒業設計制作NCF空間ディスプレイアワード受賞作品

受賞年	2025年	
受賞タイトル	奨励賞	
区 分	Ⅳ．都市ディスプレイデザイン	
フリガナ	コギソ リキト	
制作者名	小木曽 カ斗	
フリガナ	ダイドウダイガクコウガクブケンチクガクカ	
卒業時の大学 学部・学科	大同大学工学部建築学科	
フリガナ	フナハシ ニナ	職名
推薦者名	船橋 仁奈	教授
フリガナ	トシノゲキジョウーカソウキョウカイニヨルハザマノカイシュウ	
作品名	都市の劇場ー仮想境界による狭間の改修ー	
概 要	 都市の劇場 ー仮想境界による狭間の改修ー 近代以降の建築は、そこで起こる人々の活動を内へ内へと閉じ込めてきた。 その結果、人の活動は建築の用途ごとに分断されているように感じる。 本研究では、都市空間でみられる目的を持った行為（演者）が更に他者（鑑賞者）に感情や別の行為を誘発し、 演者/鑑賞者の反転作用が連鎖的に生まれている状況に着目した。 この連鎖的な現象を持つ都市ディスプレイ空間を建築空間のディスプレイにも応用することで、 敷地を超えた人々の活動が連鎖的に波及する。 すなわち、新たな人やモノ、コトとの繋がる手段を開示することで、 より豊かな都市空間を形成できると考える。 そして、対象敷地である複合ビルに11カ所の狭間の改修を行った。 建築空間を媒介に敷地を超えた人々の能動的な活動が街に活気もたらし、その街らしさを継承していく。 また、失われつつある界限性も取り戻すことが出来ると考える。	

制作者名	小木曽 力斗
作品名	都市の劇場－仮想境界による狭間の改修－

【コンセプト解説】

01 背景 | この世は舞台、人はみな役者

都市は様々な人の活動で満ちている



「この世は舞台。人はみな役者」これはシェイクスピアの戯曲に登場する台詞であり、**私たちが暮らす世界を劇場になぞらえた名台詞である**。都市には人の無意識の行為の中に**演者 / 鑑賞者**の関係が生まれており、**様々な人の活動で満ちている**。

02 調査 | 都市解体図

都市に息づく能動的な人の活動を抽出・分析

これらの視点を通じて、都市空間がもたらす人々の能動的な行為を観察し、建築空間における新たな可能性を探る。



都市には我々の想像を超える**人間の活動**が生まれている。

03 考察 | 都市の仮想境界

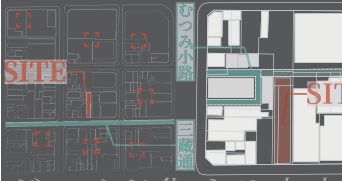
※ある物とある物の間＝仮想境界
人々の活動はある物とある物の間に生まれる



仮想境界の事例
「一部抜粋」
・日常 / 非日常
・用途の転換
・用途の転換
・都市空間で起きている状況によって異なる活動が生み出される

04 敷地-a | 基盤割された都市計画

「表」と「裏」の二面性こそが都市本来の姿



ヴォイド化する中央部

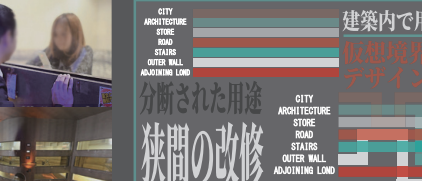
04 敷地-b | サンリツビル

都市の「表」と「裏」を包含した稀有な複合ビル



05 提案 | 都市の劇場

断片化した要素を繋ぎ合わせる



建築内で用途が混在する状況
仮想境界によるデザイン
断片化した用途
狭間の改修

『奥の奥』

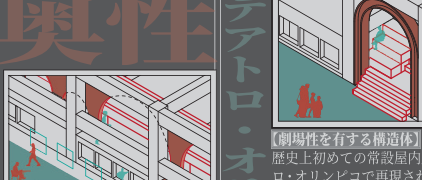
見えがくれする都市



【力動性を帯びた小広場】
偶発性を伴う立体街路の先に計画された小広場。不定形で、閉ざされており、微弱な中心性を有する。この場には、アノニマスな不規則性とそれがもたらす多様性、場所性が生み出す空間のダイナミズムが潜んでおり、それこそが新たな人々の活動を誘発するものとして計画した。

『力動性』

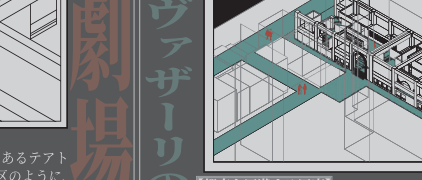
『広場の造形』



【劇場性を有する構造体】
歴史上初めての常設屋内劇場であるテアトロ・オリンピコで再現された街区のように、アーチの向こう側にはむつみ小路の町並みが広がる。階段席からは、どこに座っても、アーチ奥に延びる五本の街路の少なくとも一つは見通せるように設計されている。なお、鑑賞者の視線が都市の中に吸い込まれるきっかけを生むアーチは、梁欠損を補うための補強材として計画した。

『多様性』

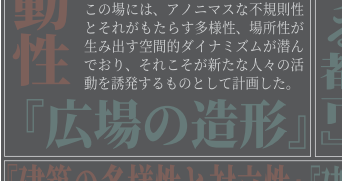
『人間の街』



【都市を回遊する回廊】
ビルに存在する既存の中廊下や新たに生まれた片廊下、回遊動線、立体街路が重なって一つの大きな回廊となる。さらにこの回廊は、ビル南側の三蔵通、北側のむつみ小路と接続し、多面的な関係性を生む場となっていく。

『建築の多様性と対立性』

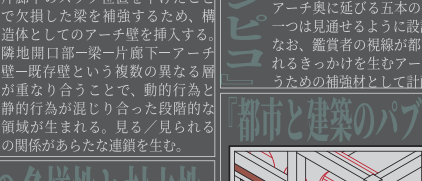
『建築の多様性と対立性』



【対立性を表す円形広場】
表と裏、2つの顔を持つサンリツビル 1F の北側および南側に、同じ形状の半屋外広場を設ける。場の特性により、それぞれ異なる2つの活動を生み出すこととなり、それらの活動が衝突するビル内での活動がさらに多様化する。人々の能動的な活動が、建築の秩序を超える状況を生み出す。

『浮世人物図巻 上巻』

祝祭性



【祝祭性を有する都心の庭】
既存スラブを 1100 mm 下げ、土を盛る。既存梁や既存壁が地表にあらわれたことにより、多様な仕切空間としての庭が生まれる。各区画には桜の木を一本植えるというルールが設けられ、テナントと同じように賃貸者がつく。春になると個々の桜が咲きほころび、集合体としての風景をつくり出す。

『市街劇ノック』

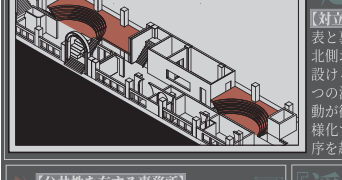
偶発性



【偶発性を伴う立体街路】
ビル内に存在する既存通路の特性を引用し、ビル全体にそれを巡らせる計画。その結果、通常では出会う事なかった出来事に遭遇し、それらが連鎖的に発展する。見る／見られるの図式、そしてその反転作用が生み出される事で、人々はビル内で起る活動に自然と巻き込まれていく。

『公共性を有する事務所』

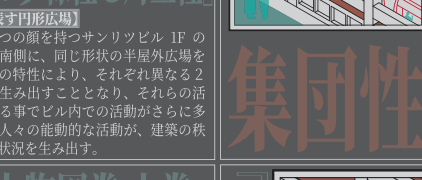
ヴォイドの戦略



【公共性を有する事務所】
廃止された屋内避難階段は、各階の空き部屋をつなぐ吹抜となり、立体的に連続する事務所となる。階段のどこにいても必ず複数の場所を視認でき、ビル内の様々な要素をつなぎあわせる効果を生む。

『アメリカ大都市の死と生』

界隈性



【界隈性を生み出す階地境界線】
既存飲食店の天井が階地境界側に拡張されて生まれた軒空間。階地境界線を線ではなく面で捉え、管のような、多世代間・異業種間における多様性のある他者との出会いを創出する。路地や裏町を彷彿とさせるこの小さな空間により人々の新たなつながりが生まれる。

『浮世人物図巻 下巻』

祝祭性



【祝祭性を有する都心の庭】
既存スラブを 1100 mm 下げ、土を盛る。既存梁や既存壁が地表にあらわれたことにより、多様な仕切空間としての庭が生まれる。各区画には桜の木を一本植えるというルールが設けられ、テナントと同じように賃貸者がつく。春になると個々の桜が咲きほころび、集合体としての風景をつくり出す。

『市街劇ノック』

偶発性



【偶発性を伴う立体街路】
ビル内に存在する既存通路の特性を引用し、ビル全体にそれを巡らせる計画。その結果、通常では出会う事なかった出来事に遭遇し、それらが連鎖的に発展する。見る／見られるの図式、そしてその反転作用が生み出される事で、人々はビル内で起る活動に自然と巻き込まれていく。

『公共性を有する事務所』

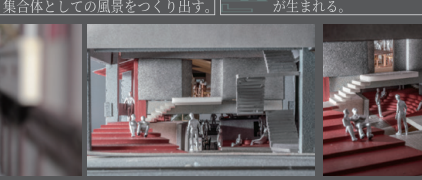
ヴォイドの戦略



【公共性を有する事務所】
廃止された屋内避難階段は、各階の空き部屋をつなぐ吹抜となり、立体的に連続する事務所となる。階段のどこにいても必ず複数の場所を視認でき、ビル内の様々な要素をつなぎあわせる効果を生む。

『アメリカ大都市の死と生』

界隈性



【界隈性を生み出す階地境界線】
既存飲食店の天井が階地境界側に拡張されて生まれた軒空間。階地境界線を線ではなく面で捉え、管のような、多世代間・異業種間における多様性のある他者との出会いを創出する。路地や裏町を彷彿とさせるこの小さな空間により人々の新たなつながりが生まれる。

『浮世人物図巻 上巻』

祝祭性

【祝祭性を有する都心の庭】
既存スラブを 1100 mm 下げ、土を盛る。既存梁や既存壁が地表にあらわれたことにより、多様な仕切空間としての庭が生まれる。各区画には桜の木を一本植えるというルールが設けられ、テナントと同じように賃貸者がつく。春になると個々の桜が咲きほころび、集合体としての風景をつくり出す。

『市街劇ノック』

偶発性

【偶発性を伴う立体街路】
ビル内に存在する既存通路の特性を引用し、ビル全体にそれを巡らせる計画。その結果、通常では出会う事なかった出来事に遭遇し、それらが連鎖的に発展する。見る／見られるの図式、そしてその反転作用が生み出される事で、人々はビル内で起る活動に自然と巻き込まれていく。

立体街路が新たな出来事に遭遇させる 視線を都市の中に吸い込ませるアーチ 内部まで続く道は多面的な関係を生む 円形広場が新たな演者を生み出す 能動的な行為を生み出す狭間の空間 既存の壁や梁が都心の庭の仕切となる

公益財団法人乃村文化財団